Bike is Good!
www.bike-joy.com/b

「Bike is Good!」
自転車の良さは90%の人が指示していますが、支持率95%に向け、
その普遍性や可能性を実証実験から再考してみました・・・

再修案

～THT Japan Ver.2･6 サイクリングネットワークの再構築～

Think MTB from 信州

富士見パノラマリゾート　御中

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・P2
テトラバランス“アレンジ”・・・・・P3
フィールドアンケート・・・・・・・・・P4
リバティFとSBFサテライトS・・・P5
スケジュールと課題・・・・・・・・・・P6

B×Cの提案・他・・・・・・・・・・別紙

自転車遊び研究所
COURSE CREATE
Open-road, Closed-circuit, School, Media, Academy

〒740－0036
山口県岩国市藤生町1-30-6
TEL　090－3170－6658
InterFAX　03－6368-4661
E-mail　Coursecreate@aol.com
URL　http://www.bike-joy.com

2013年10月25日版(2012年12月8日起稿)

… はじめに …

再修案

京都議定書を遠因とする**平成エコ系自転車ブーム**に、東日本大震災復興や地域振興なども絡まって、大規模なロングライドイベントが目白押しです。また、2020年の東京オリンピックも開催が決定して、自転車競技にも力が入ると期待しています。

但し、**MTBブーム**の折り、スキー場のグリーンシーズン利用企画が新規購買者のイベント参加がひと回りしたところで減速したり、アトランタオリンピックで正式採用になったにもかかわらず、メダル種目として期待薄となるとマイナースポーツ扱いになったりと、**苦い経験**もしています。

昭和30年代の第一次サイクリングブーム。舗装率が低く車もそう多くない道路事情が、自転車の普遍的な楽しさを容認した時代に、財団法人日本サイクリング協会も誕生しました。それに続くサイクリングブーム第二世代と自負している私は、先輩たちの轍を見ながら、どちらかと言うと、隙間的なエキセントリックな自転車ソフト(**MTBラリーレイドやブルベ**)に力を入れていました。その結果、MTBツーリングやロングライドのカスタマイズ企画にお呼びがかかる立場となっています。

売れ筋の車種が出現する度に繰り返される自転車ブーム。時代背景も関連していますが、普遍的な楽しさの追及や走行環境の整備はその**ブームの尺**には納まりません。

MTBブームの時にロングライドの可能性を提案しましたがほぼ無視をされ、今はMTBの可能性を継続提案していますが低空飛行の状態です。その理由や改善策は経験的に見えていますが、より多くの関係者の支持が必要と考え、今回の「Think　MTB」の提案に至りました。

MTBはフィールドを必要とします。都会に住む愛好家と地元のコースオーナーの相互理解が必要な**奥座敷型の自転車ソフト**の典型です。それでも山道を走る法的根拠は希薄であり、クローズドサーキットとオープントレイルのバランスを論議する必要があり、その適地として信州を候補に考えています。

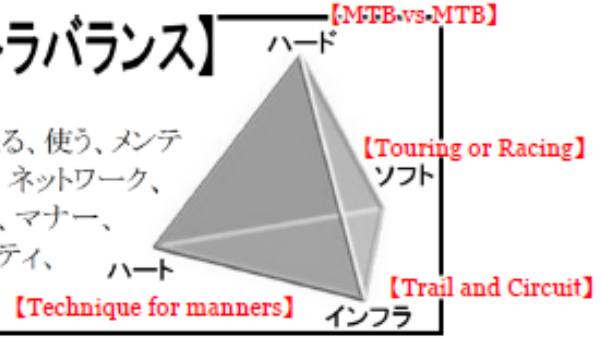
<<Think−MTB−From−信州>>

・・・ テトラバランス“アレンジ” ・・・ 再修案

「自転車の驚きは普遍」と言う意味を込めた「Bike is Good!」。
それをキャッチフレーズに日本の風土に合った自転車遊びを探る実証実験を行ってきました。
そして「THT26」に辿りつき、さらに副産物として見つけたのが「テトラバランス」です。

自転車環境正四面体 【テトラバランス】

自転車多様性を、**ハード：自転車**（作る、売る、使う、メンテナンス）、**ソフト：使い方**（楽しむ、仕掛ける、ネットワーク、日常利用と余暇活動）、**ハート：人**（ルール、マナー、テクニック）、**インフラ：環境**（道路、セキュリティ、保険、サイクリングクラブ）の4つに凝縮。



2012年、2013年とサイクルエイドジャパンに関わり、普通の道を普通に走るイベントの必要性と難しさを改めて感じました。
また、シマノバイカーズフェスティバルに立ち上げから関わっており、日本の山道利用の難しさや、アウトドアフィールドのセキュリティの脆弱さも感じています。

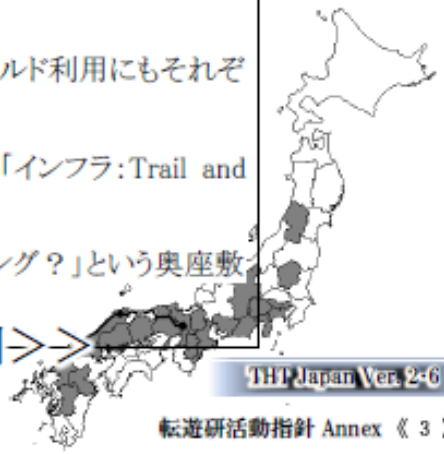
この課題は、単一のイベントや限られたエリアや任意団体、そしてショップや個人のレベルで論議するものではなく、様々な関係者が共通認識に立つことが必要条件です。しかし繰り返される自転車ブームにあって、MTBという一部の車種の問題は、全体の課題と捉えられていません。しかし“道”は連続しています。

さらに細か過ぎる話ですが、MTBはハード面でもソフト面でも一括りに出来ない多様性が存在し、フィールド利用にもそれぞれの意見が混在していて、一般には理解不能な代物として前に進まない要因のひとつになっています。

その状況をテトラバランスに当てはめてみました。「ハード：MTB vs MTB」「ソフト：Touring or Racing」「インフラ：Trail and Circuit」「ハート：Technique for manners」 如何でしょう？

そのため、オールインワンで語り合うのは諦めて、苦肉の策として「表紙はエンデューロ！主題はツーリング？」という奥座敷型企画の提案を試みたいと思います。

<<マウンテンデューロ信州>>



・・・ フィールドアンケート ・・・

再修案

フィールドアンケート

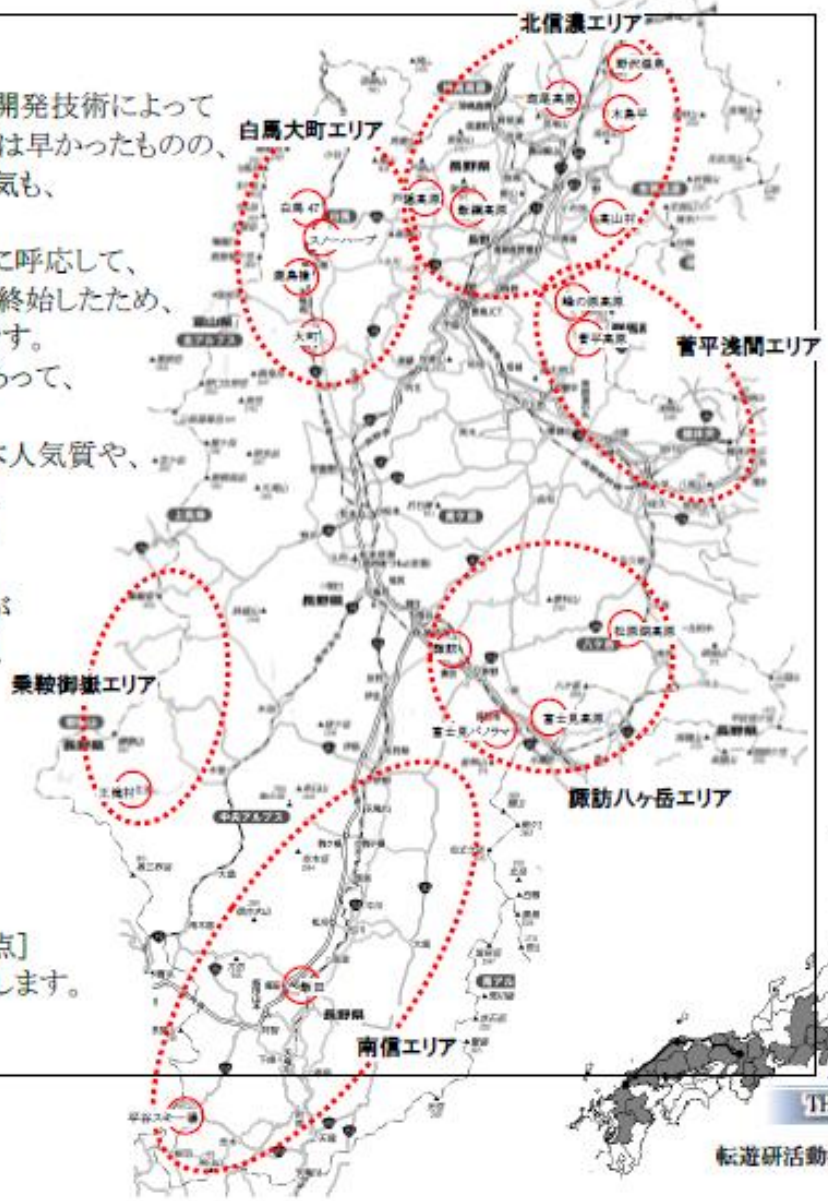
1980年代にアメリカで生まれたMTBは、日本のパーツ開発技術によって
世界的なブームになりました。しかし、ヨーロッパより上陸は早かったものの、
認知されるのも、そしてフィールドの確保も、継続的な人気も、
日本では欧米とは違った展開となっています。
簡単に言ってしまうと、アウトドアブームやリゾートブームに呼応して、
爆発的なブームとなりましたが、狭いフィールドの提供に終始したため、
スケール感を望むMTBユーザーの諦めで失速した訳です。
また、その過程で、他のフィールド利用者とのトラブルもあって、
マイナスイメージを生んだのも致命傷となっています。
しかしそれが全てでしょうか？熱しやすく冷めやすい日本人気質や、
ショップや普及団体やメディアの努不足も見逃せません。
今でも20年以上続くイベントやフィールドがある事実は、
乾いた井戸の底に、水脈があるような気がします。
一方、奥座敷型のMTBは、フィールドオーナーの理解が
不可欠であり、受け入れ態勢の可能性も探る必要があり、
その為のフィールドアンケートを提案します。

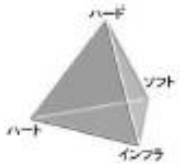
調査項目

過去の実績、現状分析、将来展望、要望と課題。

対象エリア

右図の6エリアを対象に。　[○印:現在イベント実施地点]
※過去のイベント実績や常設コース設置なども調対象とします。
※調査対象リストおよびアンケート用紙案は別途作成。





・・・「リバティフィールド」と「SBFサテライトシリーズ」・・・再修案

リバティフィールド(Liberty Field)

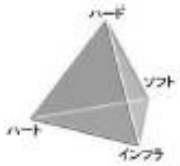
1990年代のMTBブームで各地に作られた常設コースは、レイアウトや維持管理に未熟な面があり、自然消滅してしまいました。そのため、ライダーが道普請に参加し、フィールドオーナーがイベントを仕掛けるという、相互信頼の上に成り立つ「MTBリバティフィールド」を提案します。
“リバティ”とは、「自由・解放・独立」と言う意味で、一度失速したMTBの可能性に、再アプローチするには最適の言葉と考えます。また、ローインパクトなイベントとしてMTBラリーレイドが最適と考えますが、山道を走る法的根拠が曖昧でかなり濃いグレーのため、クローズドサーキットで楽しめる日本人好みのエンデューロレースをひとつの柱としたいと思います。
つまりリバティフィールドは、走る場所を選ぶワガママな性格のMTBの“日本の山道利用の再考”が目的です。

表紙はエンデューロ！主題はツーリング？ (シンクMTB≒リバティフィールド≒マウンテンデューロ)

「エンデューロレース＋里山ツーリング」
その典型はシマノバイカーズフェスティバルです。しかしながらそのノウハウの伝授は行われていません。
“シンクMTB from信州”では、既存のエンデューロ系イベントを「マウンテンデューロ信州」としてまとめつつ、その会場周辺のトレイルを使った里山ツーリングを実施します。そして、出来れば季節限定オープントレイルを整備したいと思います。

SBFサテライトシリーズ

まだATBと呼ばれていた1989年。アメリカやヨーロッパで盛り上がるMTBブームに遅れを取る日本では、世界有数のパーツメーカーとなった「SHIMANO」が、プロモーションイベントを実行し、導火線に火を付けました。
そのプロモーション実施エリアのひとつ、長野県小海町にある「RE－EX」で産声を上げた「シマノバイカーズフェスティバル」も、会場を清里キッズメドウズ、富士見パノラマと移しながら、2013年で23回を数えています。
ブーム最盛期には1万人規模を誇っていましたが、走る場所を選ぶワガママな性格のMTBの動向は予測不能で、また周囲の理解も徐々に冷めて行き、ここ数年は常に変革を求められています。
これはP3でも触れた単一イベントで解決できる問題ではなく、他のイベントや各地のフィールドとの連携が求められる喫緊の課題です。そのノウハウの伝授イベントが「SBFサテライトシリーズ」であり、実証実験フィールドが「リバティフィールド」です。前者は東西日本で複数会場、後者は県内で複数エリアがあれば理想です。



<<長野から全国展開へ-!->>

・・・ スケジュールと課題 ・・・

再修案

FM長野企画（公的企画の課題）

“シンクMTB from信州”の要素は、「Fアンケート」と「リバティF」と「マウンテンデューロ」と「SBFサテライトS」です。
しかしそれだけでは、ユーザーはもとより関係者、一般市民の理解は得られません。
そこで**“活動指針P2”**に戻ります。
自転車ソフト三原色の提案も並行して行うことで、連続する“道”の課題の共有が可能となります。
これは数年前にFM長野と番組企画を話し合った時に指摘されたことで、「MTBだけでは番組にならないと・・・」。

そして、リバティFの具体化（公的企画）には、オーナーの覚悟とライダーの奉仕とメーカーの援助が求められます。

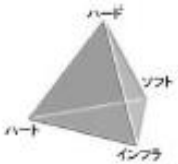
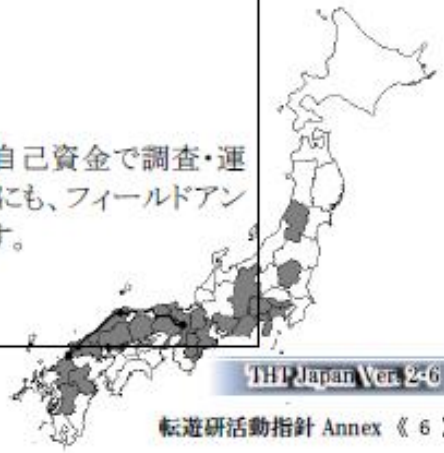
イベントはあくまでもフィールドのPR活動であり、常設オープントレイルの存在が前提ですが、その必要条件にフィールドのセキュリティの検証があります。警察、消防、地域住民、生業者、フィールド利用者、関係省庁、その他関係者の意見の集約をここで行い、一方で企画実践に必要な人材確保のためのネットワークも整備します。

そして幸いなことにSBFでは、MTBツーリング以外にも、ロングライドやポタリングもメニューに取り入れています。

制作スケジュール

2013年・・・・フィールドアンケートを富士見パノラマとシマノの連名で行う。
2014年・・・・既存イベントとの連携を進めつつ、リバティフィールド候補を探す。（翌年の補助金申請も行う）
2015年・・・・「マウンテンデューロ信州」の実施。（前年末まで調整が必要）
2016年・・・・「SBFサテライトシリーズ」の実施。（2014年後半からの仕込みが必要）

ファンドとプロジェクトコード

制作スケジュールにもあるように、その対象や規模が徐々に拡大していきます。スケジュール前半は自己資金で調査・運営を試みますが、後半は、イベント連携、スポンサー探し、公的資金申請も課題となります。そのためにも、フィールドアンケートから導き出される方向性にそったプロジェクトコード（名刺の肩書き／組織構成）も重要と思います。

★まずは「フィールドアンケート」と「イベント連携」に向けて、Goサインをお願いします。